

Book Review

66 症例に学ぶ 歯科臨床の問題解決

診断・治療方針の決定・トラブルへの対応

Edward W. Odell 原著
古賀剛人 監訳
柳 献作・鈴木弥佐士 訳

● ● ●

Reviewer

弘岡秀明 Hideaki Hirooka
(東京都・スウェーデン デンタルセンター)

A4 判, 312 頁
定価 (本体 14,000 円 + 税)
医歯薬出版刊



欧米の臨床医の間でベストセラーとなっている “Clinical Problem Solving in Dentistry” の翻訳本が出版された。読み進めていくと、非常にユニークな書であることがわかる。

66 もの臨床ケースに関して、各分野の専門医たちが執筆しているのだが、基本的な各章の作りは、「主訴>既往歴>診査>各種検査>診断>診断にいたるまでの検証過程と鑑別診断>診断結果とディスカッション>治療>知識を広げる補足」という流れになっている。

この構成は、優れた臨床医の思考過程をなぞるもので、それぞれのケースにおいてエキスパートの診断プロセスや検証法が学べる。

評者の専門分野である歯周病に関連した Case 52 を開く。

一見、歯周病と思われたケースに、

初期治療の反応がないことが記されている。歯科的および全身的既往歴、各種の検査結果から、歯周病とは矛盾した所見があげられる。そこで、鑑別診断としてプラーク由来の歯肉炎・歯周炎と類似した臨床像を示す疾患の一覧表が提示される。実に 12 もの疾患があげられ、それぞれの詳細な特徴と鑑別に必要な検査を知ることができる。

このケースの診断は、ランゲルハンス細胞組織球症であった。

われわれ臨床医は、ルーティンの仕事の大半を口腔内の感染症の治療に費やしている。ゆえに、こうした稀な疾患をかえって見逃しやすい傾向があるかもしれない。

本書には、こうした稀少な疾患を見逃さぬためのガイドブック的な価値があり、診療室に常備しておきたい一冊といえよう。

先般、ある有名芸能人が口腔癌に罹患したことで、口腔病変に対する患者の関心が高まっており、歯科医院への問い合わせも増えている。本書は口腔外科的な情報も豊富で、腫瘍が疑われる際の参考書としても優れている。

一方で、非協力的な患者への対処に関する解説や自閉症スペクトラムの患者への対応、ヘーベルを自分の足に落として怪我をしたときの対処法まで、日常で想定されるあらゆる種類の問題を取り上げ、非常に有用な解説に満ちた興味深い本でもある。

専門医には、特定の専門分野に偏らない幅広い視点を与え、GP には参考になる専門知識を症例から容易に探せるようになっている実践的な書籍である。

ぜひ、一読を勧めたい。